

HOME > 学術ニュース&トピックス > プレスリリース > 2017年 > 過去72万年間の気候の不安定性を南極ドームふじアイスコアの解析と気候シミュレーションにより解明

プレスリリース

- 2017
- 2016
- 2015
- 2014
- 2013
- 2012
- 2011
- 2010
- 2009

学術ニュース&トピックス一覧

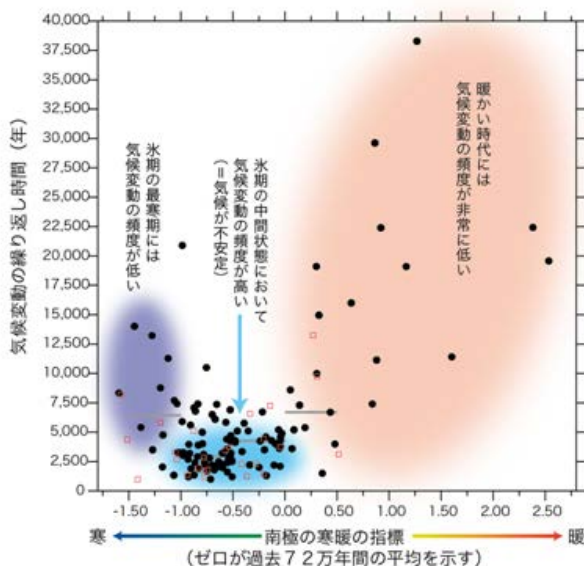
→ プレスリリース一覧

→ 研究トピックス一覧

過去72万年間の気候の不安定性を南極ドームふじアイスコアの解析と気候シミュレーションにより解明

2017年2月9日

国立極地研究所 / 東京大学大気海洋研究所
 海洋研究開発機構 / 北海道大学 / 名古屋大学
 東北大学 / 北見工業大学 / 弘前大学 / 筑波大学
 京都大学 / 信州大学 / 山形大学 / 琉球大学



国立極地研究所（所長：白石和行）の川村賢二准教授及び 本山秀明 教授、東京大学大気海洋研究所（所長：津田敦）の阿部彩子教授を中心とする31機関64名からなる研究グループは、南極ドームふじで掘削されたアイスコアを使った過去72万年分の気温とダストの解析から、氷期のうち中間的な気温を示す時期（以下、氷期の中間状態）に、気候の不安定性（変動しやすさ）が高くなることを見いだしました。さらに、その一番の原因が温室効果の低下による全球の寒冷化であることを、大気海洋結合大循環モデルによる気候シミュレーションから解き明かしました。これまで、最終氷期（約10万年前～2万年前）における気候の不安定性については研究が進んでいましたが、複数の氷期を含む長期の傾向やメカニズムが明らかになったのは初めてのことです。また、現在まで1万以上以上続いている間氷期（温暖期）が将来にわたって安定である保証はなく、現存するグリーンランド氷床の融解によって気候の不安定性がもたらされる可能性も示唆されました。この成果は「Science Advances」誌にオンライン掲載されます。

詳しくはこちらをご覧ください。

[国立極地研究所プレスリリース（2017年2月9日）](#)

プレスリリース

